



Contents

- P. 1-2 国際会議ISLT 2012・バリの開催
- P. 2-3 第15回日本水環境学会シンポジウム開催
- P. 3-4 前海を考えるシンポジウム開催
- P. 4-5 「有明海学～市民の科学講座」開催中
- P. 5-6 学会賞を受賞して
- P. 6 facebookページを開設しています！
- P. 6 スタッフの離任

低平地に関する国際会議ISLT 2012・バリの開催

去る平成24年9月11日（火）から13日（木）の3日間にわたり、インドネシア・バリ島で低平地に関する国際会議（International Symposium on Lowland Technology、略称ISLT）2012が催されました。同会議は、佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程を修了されたインドネシア・ハサヌディン大学のラワレーナ・サマン教授、ならびにトリ・ハリアント准教授を筆頭とするこれまでの現地実行委員会のご尽力のもと、第8回目の開催に至ったものです。低平地研究会、佐賀大学、および佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻からの多大のサポートを始め、多くの関係機関・各位のご理解・ご協力のお陰様で、同会議は参加者210名（17ヶ国）を得た大きなものとなりました。これまでに類を見ないメキシコとポーランドからの参加もありました。同会議では、元環境大臣等の政府の要職にあり、現在は大統領諮問委員をお務めのエミル・サリム教授を始め、ハサヌディン大学からはダダン・スリアミハージャ副学長も駆けつけて下さるなど、同会議に対する現地の高い関心・期待が伺えました。また、当センター・木梨真知子博士が優秀講演者賞を受賞されるなど、佐賀に立脚する若手研究者の活躍が目立ちました。

ISLT 2012の特筆すべき点は、まず本学で学位を取得された方々が自国の大学に戻られ、その後大きな力をつけられて後、成功裏に導かれていること、この人脈に連なる3世代目、さらには初顔合わせの学生諸氏が本学への留学を望んでいること、などです。どの大学においても一層の国際研究・教育に関する戦略の必要性が問われている今日において、地方の佐賀にこれだけ多くの期待の目が注がれていることは望外の喜びといえます。佐賀大学大学院工学系研究科で作成された同研究科の英文パンフレットを持参し、PRに努めましたが、品切れには数分を要しませんでした。当センターの控えるILMRサテライト構想の実現もまた、急がれるというものです。

次ページへ



ISLT2012・バリの様子

今回は平成26年（2014）年、佐賀にて第9回目の開催が決定されました。今回のISLTとは打って変わり、開催地条件の不利は避けられません。ならばこそ、目玉となるテーマの設定とそれまでの研究・教育の持続的発展を図り続ける必要があります。具体的には、当センターの関係者は総じてインパクトファクターの高い論文集への論文掲載を目指すこと、国際低平地研究協会（IALT）における英文審査付論文集の一層の質の向上を目指すこと、などのことを思っています。

今回のISLTにおいて、佐賀の地からは研究者・技術者のみならず、学生諸氏も参加し、発表・ディスカッションに臨みました。学生諸氏におかれましては、海外の研究者・技術者・学生諸氏の発表を振り返ってみれば、上述の筆者の信じるところはあながち外れでもないことをご理解いただけますでしょうか。発表の多くに「自分の研究はどこそこの審査付論文集にいくつ採択された」、などと加えられていなかったでしょうか。一見子供の主張のごときこのようなプレゼン方法も、今日の国際標準と理解しなければならぬと思いを重ねています。

末筆となりましたが、この度のISLTでは、佐賀大学から「平成24年度学生海外研修支援事業」による渡航助成のご支援をいただきました。記して感謝の意を表します。本学の学生諸氏の頑張りにつきましては、しかる後の報告書で詳述させていただく所存です。ご期待下さい。

（日野 剛徳）

第15回日本水環境学会シンポジウム開催報告

日本水環境学会シンポジウムは、関東・関西地区を主として開催されており、今回が15回目の節目にあたる。その間、第4回（九州国際大学）、第10回（熊本大学）および第14回（東北工業大学）は地方開催で、今回の第15回が佐賀大学（実行委員長：山西）となった。本シンポジウムでは、シンポ開催期間（9/10～12）に学会が有する研究委員会主催のセッションを主とした合計21セッションが開催された。佐賀大学としては、本シンポジウムの共催という位置づけで、また、低平地沿岸海域研究センターは低平地研究会とともに、シンポ3日目（9/12）の現地見学会を主催した。以下、現地見学会報告を概説する。

当日は、佐賀バスセンターに朝8時に集合いただき、事前に申し込みしていただいた29名が乗車した。まず、佐賀・低平地の特徴を俯瞰していただくため、①さが水ものがたり館を訪れ、荒牧館長から佐賀の治水・利水・環境の説明を受けた。その後、②巨勢川調整池（国交省・糸山様）、③干潟よか公園（佐賀市・碓様、内山様）、④佐賀市下水浄化センター（山口所長）、⑤佐賀県有明水産振興センター資料館&ムツゴロウ保護区（佐賀県・野口様）、⑥六角川河口堰（国交省・高木様）を見て回った。東与賀海岸に広がる干潟を目にした参加者からは、感嘆の声が寄せられ、説明・随行了したものとしてはうれしい限りであった。また、多くの参加者の興味を引いたのは、佐賀市下水浄化センターの取り組みで、良質な下水汚泥の肥料化と

次ページへ



さが水ものがたり館
での記念撮影

その還元活動，地域特性に応じた水処置運転などに皆が熱心に聞き入っておられた。企画側としては8時間であちこち欲張った見学設定をしたため，駆け足で参加者の皆さんを連れ回した印象はぬぐえず，加えて，当日は日差しも強く，皆さん少々へばられたのではなかっただろうか。もう少し余裕を持った企画が必要だったかもしれない点が反省点であった。なお，見学会開催にあたり，各現場での説明をお願いしました関係者各位に深く感謝申し上げます。

今回のシンポジウム参加者数は398名を数え，関東・関西地区以外で開催された今までのシンポジウムの中で最大規模であった。なお，佐賀シンポジウムについては，日本水環境学会誌12月号の特集記事としてとりまとめられる。詳しくは，そちらをご覧ください。

最後に，本シンポジウムの佐賀開催にあたり，開催地での準備と当日の運営に協力いただいた佐賀大学学生さんとともに，実行委員会メンバー，とくに当センターの手塚公裕先生と江頭明子さんに大変ご苦勞をおかけした。この場を借りて感謝申し上げます。

(山西 博幸)

「前海を考えるシンポジウム～鹿島・有明海の現在」 開催

鹿島市は有明海奥部最大の泥干潟を有し，新籠が渡り鳥の保全連携協力事業指定地になっているなど，有明海の生態系を保全する上で重要な位置をしめています。また，地撒きカキ養殖，ムツ掛け漁など伝統漁業が残る上に，ガタリンピックなど泥干潟を生かした町おこしも活発です。一方で，研究教育機関である佐賀大学は鹿島サテライト「むつごろう館」を中心として市民向けの公開講座などを実施しており，西海区水産研究所有明海・八代海漁場環境研究センターは鹿島沖有明海にブイを設置しリアルタイムのモニタリング調査を実施するなど，活発な研究・教育活動も行っています。さらに，鹿島市は市の基本計画の中で「有明海研究所誘致」の構想をも表明するなど，「有明海」を利用した政策に努めています。このように「産・官・学・市民」の様々な主体による活動があるものの，それらは主体間の連携がなく，また一般の鹿島市民に理解が及んでいません。そこで多様な主体間の活動を繋ぐとともに，鹿島市民にわかりやすい活動紹介をすることにより，今後の鹿島における有明海とのつきあい方を考えるきっかけになればという目的で，2012年9月8日に「前海を考えるシンポジウム～鹿島・有明海の現在」開催しました。

シンポジウムは2部構成で行いました。第1部では有明海で活動している方々に講演をして頂きました。研究教育機関からは，熊本大学の逸見泰久氏，水産総合研究センター西海区水産研究所木元克則氏，佐賀大学低平地沿岸海域研究センター速水祐一氏により有明海の変遷と現状，生物の生息状況，また現在研究機関で行っている取り組みについてご紹介頂きました。また，七浦地区振興会・鹿島市干潟展望館の

次ページへ



東与賀海岸に広がる干潟



汚泥の堆肥化施設の様子



前海を考えるシンポジウムの様子

中村安弘氏には、鹿島市の干潟・湿地に飛来する野鳥の解説やラムサール条約についてどう考えるかという問題提起をして頂きました。また、鹿島市議でもあり漁業者でもある稲富雅和氏には、鹿島市の海苔養殖の現状および漁業者が行っている海洋観測について紹介がありました。

第2部では、第1部で講演頂いた方々に向けた会場からの質問に回答しました。同じ有明海地域でラムサール条約登録湿地に登録された荒尾干潟の活動に対して鹿島市はどのような活動が可能なのか、「鳥」に注目すると「海苔」はどうなるのかなど、活発な議論がありました。また、コメンテーターとして鹿島市役所産業部部長の中川宏氏をお招きし、鹿島市役所の活動と議論に対し鹿島市としてはどのように考えているのかなどのコメントを頂きました。同じく、有明海の環境や地域の活動に詳しいNPO法人有明海再生機構荒巻軍治氏からも議論に関するコメントを頂きました。

以上のように有意義な議論がなされましたが、残念ながら参加者は約60名とふりませんでした。広報に関しては、鹿島市内の公共機関にポスターを掲示するとともに、鹿島市広報、新聞記事の掲載などによって行った上に、有明海地域の公共機関に対してポスターの掲示をお願いしました。それにも関わらず、参加者数が少なかったのは、①鹿島市内で他のイベント（運動会や祭など）と重なったこと、②このタイトルのイベントだと固いイメージとなってしまう、一般市民に「有明海」への感心を導くことが出来なかったこと、が挙げられると思います。①に関しては調整が難しく、地域外のメンバーがイベントを把握することは困難です。したがって、今後は開催地域の方をメンバーに加えてイベントの計画を練る必要があるかもしれません。②に関しては、「生活に密着した内容」から派生した有明海のイベントにすること、「有明海に感心の無い人」を引き込みやすい有名知識人の講演などを加える必要があるように思います。 (藤井直紀)

「有明海学～市民の科学講座in鹿島」開催中

「有明海学～市民の科学講座」は、有明海の環境保全と、沿岸地域における持続可能な生業や生活のあり方について、講義と実践・体験・実験・実習等を通して、市民が主体となって学び、市民による多様で継続的な実践活動につながるような人材の育成を目指す事業です。この講座を通して、将来的には沿岸域における持続可能な地域振興の担い手が育つことを期待して行っています。

本年度は、全6回開催し、干潟の生物観察、棚じぶでの夜間生物採集、生物を飼育することにより「有明海の環境を考える」実習、海苔養殖・カキ礁の見学、有明海の漁撈に関する座学・食す、などを企画しています。まお、9月1日には第一回を開催しました。第一回目は佐賀大学農学部の五十嵐勉氏に、「市民の科学」の重要性について、また有明海地域における地域振興の現状について紹介して頂きました。

是非、周りの皆さんを誘って参加して頂ければ幸いです。

次ページへ

主催：佐賀大学低平地沿岸海域研究センター・鹿島市干潟展望館

場所：佐賀大学干潟環境学習サテライト「むつごろう館」

第二回 干潟の生物を観てみよう

担当：中村安弘，藤井直紀，吉野健児，速水祐一

開催日：9月29日 13時～16時

第三回 生物を飼育してみよう～生物をもっと知るために

担当：藤井直紀，中村安弘

開催日：10月6日 13時～16時

第四回 棚じぶで夜に採れる生物を観てみよう

担当：中村安弘，藤井直紀

開催日：10月13日 17時～19時

第五回 カキ礁とノリ養殖の現場を観てみよう

担当：速水祐一

開催日：10月20日（予定）13時～16時

第六回 有明海の食と干潟漁撈

担当：武田 淳（元佐賀大学農学部教授）

開催日：10月27日 13時～16時

【受講者】 高校生以上

【申し込み】 申込先：鹿島市干潟展望館（中村）

住所：〒849-1323 鹿島市大字音成甲4 4 2 7 - 6

TEL：0954-63-1723（申込時間9:00～17:00）

FAX：0954-63-1788

参加費：第2回～第5回1000円＋実費，第1回・第6回無料

学会賞を受賞して

このたび、「水資源としての湖の水および熱収支に関する一連の研究」に対し、農業農村工学会より研究奨励賞を受賞いたしました。

一連の研究では、鹿児島県の池田湖を対象に、水収支に加え、水温や湖面における熱フラックスなどの熱的特性を、現地観測と数値シミュレーションによって明らかにしました。周辺農業地域の重要な水資源である池田湖では、渇水時に湖水位が農業用管理水位を下回り、取水できなくなることがありました。水収支の解明により、こうした当地域の水資源問題の解決に重要な知見を提供することができたと考えています。また、池田湖の水および熱収支を国内外のいくつかの湖と比較することにより、国際的な観点から温暖で水深の深い池田湖の水および熱収支の特徴を整理することができました。地域貢献と国際的な成果の公表は、本一連の研究業績において重要であったと感じています。

池田湖の研究を始めたのは、2001年からでした。当時、私は鹿児島大学の修士課程の学生でした。研究の進め方や論文の書き方が

次ページへ



受賞した伊藤祐二博士

よく分からないまま、ただ地域の水資源問題の解決に携われることに喜びを感じ、研究？に取り組んでいたことを覚えています。それから11年が経過しました。指導教員をはじめとする多くの方々からのご指導、ご支援により、研究奨励賞という一定の評価を受けることができ、大変うれしく思います。研究の世界に身を置いて以降の毎日、苦悩の連続で決して平坦ではなかったと思います。そのため、今回の受賞は私にとって大きな励みとなりました。今後も、より質の高い研究を継続できるように、これまでと同様に日々精進していきたいと思っています。

最後に、本紙面をお借りし、本研究をご推薦、ご審査していただいた方々、研究を支えていただいた関係者、ならびに共同研究者の各位に心より感謝の意を表します。

(伊藤祐二)

facebookページを開設しています！

有明海の研究を行っている「有明海研究プロジェクト」では、研究の情報発信のためにfacebookページを開設しています。このページでは、有明海の写真、プロジェクトのメンバーが実施している調査の様子、植物プランクトンの発生状況、ビゼンクラゲの発生状況、イベント情報を掲載しています。是非、アクセスしてみてください。また、コメントも募集しています！

<http://www.facebook.com/AriakeSeaP.ilmr>



スタッフの離任

当センターのスタッフのDr. Sanaga Srinivasulu客員教授と原弘行研究機関研究員が平成24年9月30日をもって離任されます。お二人の今後のご活躍とご健闘を祈念いたします。

編集後記

今年の夏はセンター主催の国際学会やシンポジウムが多く、スタッフの皆様はお疲れのことと思います。季節の変わり目ですのでご自愛ください。(手塚 記)

発行・編集

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター
〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
TEL 0952-28-8582 0952-28-8846
FAX 0952-28-8189 0952-28-8846
ホームページ <http://ilt.saga-u.ac.jp>

(平成24年9月30日発行)